

感覚運動遊具を使って、揺れや傾きなどの感覚を楽しもう！

教科・場面

高等部A班  
「運動」

授業・実践のねらい

- ①様々な姿勢や身体の動きを通して感覚を育て、ボディーイメージや運動機能を高める。
- ②身体に受ける重力の強弱の落差やバランス刺激を感じながら因果関係の理解を深める。
- ③教員の働きかけに対し、表情・身振り・発声・視線などで反応や応答ができる。

対象の児童・生徒

高等部A班 生徒10名(身体面においては、生徒全員が日常的に車いすを利用しているが、全員が全介助で移動している。介助歩行ができる生徒もいるが、8名は、自分で寝返りなど粗大運動を行うことや座位姿勢を保持することが難しく全介助である。コミュニケーション面においては、喃語や発語ではなくグループの生徒全員が表情や視線、身振り、発声など個々の方法で自分の思いを表出している。)

教材・教具【個々の実態に応じた感覚運動遊具】

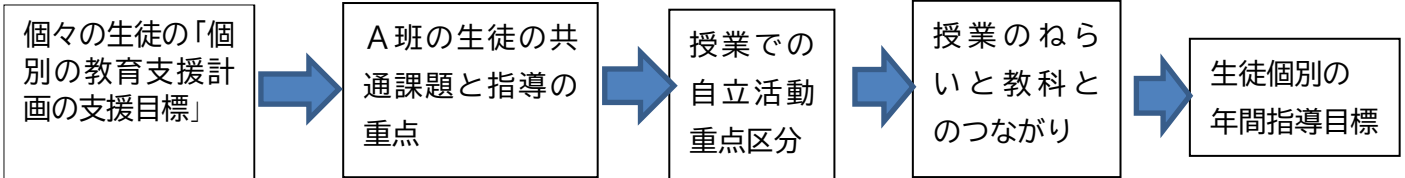
- ・ファシリテーションボール ・乗馬マシン
- ・ピーナッツバルーン ・バランスボード
- ・立ち乗りブランコ ・オーシャンスイング
- ・ボルスター ・エアリアルハンモック など

工夫したところ

活動しやすい姿勢保持ができるように、個々の目的に応じた感覚運動遊具を選択した。

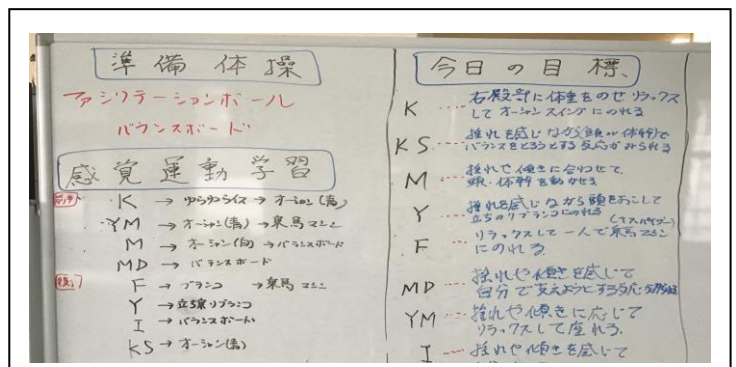
授業展開・教材の使い方・実践の内容など

個々のニーズに応じた授業を展開していくために、STとの共通認識がとても重要であったので、「運動の授業の手引き」を作成し、



STにも、上記の内容を確認してもらった上で、個々の生徒の各授業での課題と目標を立てて「目標が達成できたか？」授業ごとに評価した。

授業の進め方・指導の流れについても解説・写真付きで手引きに載せた。⇒ ～別紙参照～



授業・実践を通じた児童生徒の変容

・各授業における個々の生徒の課題と目標、指導・支援の方法についてSTとあらかじめ共通認識を図りながらスモールステップで進めることができたので、生徒の変容をSTと確認しながら行うことができた。各生徒ともに個に応じた感覚運動遊具を使用して、身体に受ける重力の強弱の落差やバランス刺激を感じながら、ボディーイメージや運動機能を高めることができ、因果関係の理解も深めることができた。

## 【うんどう(A) 授業の進め方】

- ① 身体の筋緊張を整える。(体を動かす・バランスをとる・感覚を受け入れる・気持ちを表現する準備)  
(生徒を前半4名 後半4名と分けて行う。1つの課題は、1分弱。2グループ15分程度のイメージ)

写真	【本人+援助者】のすること	確認事項
	<b>【①胸周りの開き】</b> 本人の両肩に手を乗せ、ボールを押しようにして、両肩を広げ、胸を張るようにする。この時、胸を広げる方向は、斜め45度の方向に開いていく。	①胸周りが開いてきたか ②首の後ろ・腰周りの力が抜けているか。
	<b>【②体側弛め】</b> 伸ばす側の肋骨下端と骨盤外側を引き離すような援助を行う。	①伸ばしている側の体側(肋骨の一番下側と骨盤の一番上側)が開いてきているか。
	<b>【③立ち直り、体幹の回旋】</b> 腰を軽く止めた状態で、肩に当てた手で、ボールを押しようにして体幹を回旋させていく。	①体幹を回旋するとき、回旋方向に、顔を向けられているか。 ②回旋から正中位に戻るときに、顔は正面を向いてきているか。
	<b>【④四つ這い位前後重心移動】</b> 援助者の誘導に合わせて、前後(左右)に重心移動を行う。両側の膝に均等に体重が乗るように誘導する。上肢の引き込みが顕著な場合、上肢を前方に引き出す。	①左上肢が引き込んでいないか。 ②股関節が弛み、楽に重心移動できているか。 ③膝の上をしっかり体重が乗っているか。
	<b>【⑤膝立ち】</b> 援助者は、四つ這い姿勢から両膝に均等に体重をのせ、骨盤・体幹を立てて膝立ちができるように、前方のボールに手前方向の圧をかけながら、後方から本人の臀部を上前方に押し出すような援助を行う。	①身体の背面を過剰に緊張させずボールに、身体の前面をある程度あずけられているか。 ②左右に重心移動しても、背面に過剰な緊張が入らないか ③腰を伸ばして立てているか。

- (ポイント) ・怪我なく、安全に。(出来ない課題は行わない。) ・FBをたくさん動かさない。  
 ・生徒に声掛けをしながら一緒に行う。 ・姿勢、筋緊張は常にチェック。

②感覚運動学習(だいたい、1回4～5種類の遊具を用意。参加生徒数10名を2グループに分けて行う)  
 (使用予定の感覚運動遊具)乗馬マシン、ゆらゆら椅子、ボルスター、エアリアル、スパイダー、立ち乗りブランコ  
 オーシャンスイング、電動車いす、ラージボール の中から選択。



(本人が下肢に力を入れれば、遊具が前後に効率的に動くように膝が開くのを止め、足の裏を床に着けるような支援をしています。)

①⇒⑥までの指導の流れは、一回の授業で行うというのではありません。

「年単位」で進めていくというイメージです。

1回の授業⇒「今日は、教員の声かけに1回注目できた！」でOK記載しているのは、あくまで、指導の方向性です。

①⇒⑥までの中にも、表記しきれない小さなステップがたくさんあります。小さな成長を見逃さず、1つ1つステップをのぼっていくことが大切だと考えています。

課題も個々の生徒で異なります。①⇒④までの課題を繰り返すのが良い生徒。

⑤⇒⑥をねらいに繰り返す方が良い生徒もいると思います。

**大切なのは、明確に「ねらい・目的」を持って指導することです。**

### 【オーシャンスイング】(指導の流れの一例)

①止まっている遊具に、「乗るよ～！」など声掛けをしてから乗せて少し待つ。(見通しが立たず、怖がる生徒もいるので。)



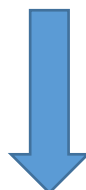
②「揺れるよ～！」など注意反応や期待反応を促した後、遊具に揺れに気づいてもらうように教員が揺れを繰り返す。(揺れに感じている？揺れに合わせて姿勢を保持しようとしている？)



③遊具の揺れをとめ、揺れが止まったことへの気づきを促す。本人が止まったことに気づいている様子が確認できれば「止まったね～」と声掛けをする。(動いているとき と 止まっているときの反応の変化を確認。)



④再び、「揺れるよ～！」など注意反応や期待反応を促した後、遊具を揺らす。②と③を繰り返す。「教員の声かけに応じて手を伸ばす」(要求の表出)などを促したい場合は、「ねらいの要求ができれば⇒揺らす」ようにする。



(②～④までの流れを繰り返し行い、定着してくると、次のステップのチャレンジ！！)

⑤遊具の揺れをとめて、しばらく待つ。(動かしてほしい部位に、触れて感覚を意識しやすいように支援する。)

・本人が(偶然)下肢に力を入れて遊具が前後に動いたら、「動いたね～！」「楽しいね～！」と声掛けをして、再び待つ。

### 【足を動かせば、ブランコが揺れることの気づきを促す。】

(本人から教員に「揺らして～」との要求表出が出てきている場合や本人の動きが止まって、覚醒が下がってくるようなら、無理せず②～④の課題を再び繰り返す。)



⑥繰り返し自分から遊具を動かしてくればOK！！

【ブランコを揺らすために、自分で足を動かす(楽し～！)】

※ 活動する際は、原則、プレーリーや短下肢装具は外して活動します。(身体の動きを促したいので)しかし、姿勢保持などの観点から装具を装着した方が良いと判断した場合は、プレーリーや装具をつけて活動をします。(必要だと判断すれば、その都度、連絡しますね。)

## 【感覚運動遊具:指導の流れ ステップ I】

①遊具に、「乗るよ〜！」など声掛けをしてから乗せて少し待つ)

見通しが立たず、怖がる生徒もいるので

②「揺れるよ〜！」など声かけを行い、注意や期待の反応などを促した後、遊具を揺らす。

**注意反応**・・・「ちらっと見る」など教員に注意が向く。

**期待反応**・・・「笑顔がでる」など期待・予測の反応がでる。

**応答**・・・「本人のできる表出方法」で応答してくる

**ポイント** 反応・応答するまで「ちょっと待つ」

③遊具を揺らす。

揺れを感じているときは、「動きが止まる」ことが多い。

もしくは、しばらくすると笑顔がでることもある。

(揺れに合わせて姿勢を保持しようとしている?)

④遊具の揺れをとめ、揺れが止まったことへの気づきを促す。

揺れが止まると、「アレ??」という感じで

(視線を動かしたり、表情を変えたりして反応を示すことが多い。

動いているとき と 止まっているときの反応の変化を確認。)

⑤再び、「揺れるよ〜！」など注意や期待反応を促した後、遊具を揺らす。

1. はじめに声かけした時より、覚醒状態が安定して反応が良い場合

⇒適度な揺れの強さ・速さなので、同じように揺らして OK

2. 興奮しすぎて、喜びすぎて、声かけに反応しにくい場合

⇒揺れ刺激が強すぎるので、やや揺れを弱くする。

3. ほとんど覚醒が上がらず、声掛けに反応しない。

⇒揺れ刺激が弱すぎるので、強めにするか・揺れの方向や姿勢を変える。

②～⑤を繰り返す。

②～⑤までの流れを繰り返し行い、定着してくると、

1. 揺れの方向を変える。

2. 姿勢を変える(仰向け⇒うつ伏せ or 座位) 同じように繰り返す。

「もしくは、「次のステップ」にチャレンジ!)

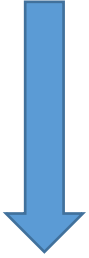


## 【感覚運動遊具:指導の流れステップⅡ】

～因果関係の理解(身体を動かすは遊具が動くことへの気づき)～※3

※3 本授業では、掲示しない。(今後の授業で掲示予定。目標としてまだ課題の高い生徒が多いため)

①まずは、「ステップⅠ(②～⑤)」を行う。



準備として、揺れ刺激を感じてもらいながら、  
外界に意識が向けられるように、覚醒状態を安定させる。

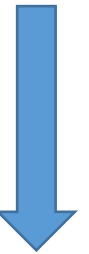
②遊具の揺れをとめて、しばらく待つ。



動かしてほしい部位に、触れて感覚を意識しやすいように支援する。  
遊具を動かせるように、足の裏を床につけるようにする。

③本人が(偶然)下肢に力を入れて遊具が前後に動いたら、

「動いたね～!」「楽しいね～!」と声掛けをして、再び待つ。



本人から教員に「揺らして～」との要求表出が出てきている場合 や  
本人の動きが止まって、覚醒が下がってくるようなら、  
無理せずステップⅠの課題を再び繰り返す。)

④繰り返し自分から遊具を動かしてくれれば OK!!

【足を動かせば、ブランコが揺れることの気づきを促す。】



【ブランコを揺らすために、自分で足を動かす(楽し～!)]